

5 コリン性蕁麻疹と減汗症の性差

Sex differences of cholinergic urticaria and hypohidrosis

青島正浩

AOSHIMA Masahiro

浜松医科大学皮膚科学講座助教

Summary

コリン性蕁麻疹の有病率に性差があるとの報告は存在しないが、減汗症・無汗症、とくに特発性後天性全身性無汗症は男性に多い。一般に発汗能は、女性に比べ男性は優れているが、女性は発汗よりも皮膚血管拡張に依存した熱放散特性を有している。反復する発汗や長時間発汗が生じると発汗量が低下する現象を発汗漸減と呼ぶが、高温環境下で活動することが多い男性は重度の発汗漸減を起こし、減汗症・無汗症を起こす可能性がある。

コリン性蕁麻疹

個疹が点状の小さな膨疹であり、運動や入浴、精神的緊張などの発汗刺激で生じる蕁麻疹である。痛みを伴うことが多い。汗アレルギーを有する群や減汗症を合併する群などが存在する。

特発性後天性全身性無汗症

原因不明の全身性の無汗症である。エクリン汗腺のアセチルコリン受容体に対する自己免疫疾患である可能性がある。一部でコリン性蕁麻疹を伴う。ステロイドパルス治療が有効なことがある。

KEY WORDS

コリン性蕁麻疹／減汗症／特発性後天性全身性無汗症／定量的軸索反射性発汗試験／発汗漸減